

# こども

発行

11/22

# ニュース

寒くなってきました。風邪をひいてしまった人も多くいて心配しています。寒暖の差が幼稚園は特に激しいのではないかと感じています。

登園時、寒いと感じていても、お日様がよく当たる園庭で、体操やドッジボールをすると皆汗ばんでいます。やはり調節できるような服装が一番いいようです。Tシャツの上に長袖トレーナー、その上に動き易い羽織るもの等、子どもが自分で調節できるといいですね。そして脱いだ洋服をコート掛けにきちんとかけられるように、紐と名前をつけるなどの準備をよろしくお願ひします。

幼稚園では、先日からクリスマスの準備が少しずつ始まりました。献金袋の製作をはじめ、アドベントの飾りも作っています。先週金曜日には、初めて「ハレルヤ」が行われました。年長児は「ハレルヤ」が始まると、自分の姿をより客観的に見つめ、自信をもって歌ったりセリフが言えない自分と葛藤し闘う姿がみられたり…。年中時は、合同の活動が増え、大勢が集まっても集中してお話を聞く姿勢が問われたり…。年少児は、年中、年長児が「ハレルヤ」をしている時間、年少児のみで遊ぶことになり、自立の一步を固めたり…。そんな小さな変化もみられることでしょう。そのような変化を機会と捉え『すべてを益とされる神』に祈りながら過ごしていきたいと思ひます。

今回の「こどもニュース」は、在弥先生から、「クリスマスのお話」を寄稿していただきました。また、献金について子どもたちに話したことを載せました。どうぞ、しっかりと読んで、クリスマスを迎える準備をしていきましょう。

加藤 千夏

「マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。」

ルカによる福音書 2章 6～7節

イエスさまがお生まれになったベツレヘムの町は、エルサレムの南の小高い丘の上にある小さな町です。誕生の場と伝えられる場所に生誕教会が建っています。イエスさまはベツレヘムの町はずれの貧しい馬小屋の中で大工のヨセフさんとマリアさんに見守られて誕生し、飼い葉桶の中に寝かされました。まさに飼い葉桶の主でした。

そしてこのイエスさま誕生の出来事は、野宿して羊の群れの番をしていた羊飼いたちに告げられました。羊飼いの仕事は辛い苦しいものでしたし、当時の社会では重んじられていない仕事でした。彼らは偉くなるとか、金持ちになるとか、有名になるとかいったこの世の楽しみや欲望を夢見することもできない人たちの群れでした。この羊飼いたちにイエスさまの誕生がまず知らされ、布にくるまって飼い葉桶の中に寝かしてある幼子が、その「しるし」だと告げられたのです。イスラエルの人々が待ち望んでいた救い主誕生という最大の喜びのニュースの「しるし」は、飼い葉桶の主だったのです。

イエスさまはかわいそうだと思う人がいるかも知れません。だれか暖かい部屋に入れてあげれば良かったのに、と思う人もいるでしょう。人口調査のため部屋が満員であったために、イエスさまの泊まる宿がなかったのは事実です。

しかし、そのために仕方なく飼い葉桶の中に生まれたというのではなく、それが救い主の「しるし」であり、それは神さまのみ心であったと、聖書は告げるのです。イエスさまは人々からあがめられ、仕えられるためにではなく、その全生涯を人々のために捧げ尽くして、助けを求めている人、救いを必要としている人のために働き、慰めを求める人の真の友となってくださいました。

ゴルゴタの十字架に向けてスタートを切ったイエスさまの生涯にとっては、飼い葉桶はまさに最もふさわしい誕生の場であったのです。

全世界に人口調査を命令した皇帝アウグストゥスは絶大な権力を持っていました。強力な軍隊を持ち、すべての道はローマに通じると言われるほどにその力を誇っていました。それに比べれば飼い葉桶のイエスさまの生はあまりにも小さい無力なものに見えました。そしてやがてイエスさまは十字架につけられて死んでしまいます。しかし今、人々の上に権力を振るったローマ帝国は滅び、人々に仕え、貧しい生涯を全うし、そのすべてを捧げきったイエスさまを主と信じる人々は、全世界に広がっています。

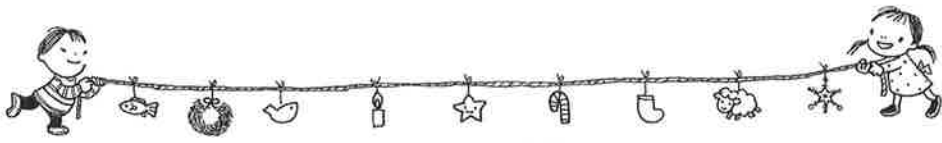
クリスマスを迎えるわたしたちは、イエスさまの誕生の喜びのニュースをしっかりと聞き、わたしたちの目と心とをしっかりとイエスさまに向けましょう。そしてすべての民に与えられる大きな喜びを、周囲の人々にも分け合う人になりましょう。



②



鎌田在弥



## クリスマス献金について

### ☆クリスマス献金とは？

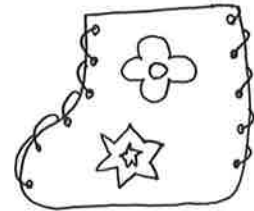
クリスマスの喜びを分かち合うこと、神さまの恵みへの感謝を込めて特別に捧げられるものです。

幼稚園では、クリスマスの本当の意味を知り、「もうすぐクリスマス！楽しみだな」「かみさま、ありがとう」という気持ちをみんなに分かち合うことから始まります。それぞれのクラスで神さまから与えられている恵みについてや、どんな時に“ありがとう”“うれしいな”という気持ちになるかなどを考え、「たくさん恵みにありがとうの気持ちをもって献金しよう」という話を子ども達としました。是非ご家庭でも世界中で困っている人たちのことを思い、なにかできることはないかなど一緒に考え、その思いを献金に託していただけたらと思います。

### ☆献金袋を作りました！

<ねらい>

- ・クリスマスを楽しみに待つ
- ・神さまからのたくさんの恵みに感謝する
- ・ぬいどりの経験をする（年中・年長児）
- ・切り紙の経験を重ねる（年少児）



上記のねらいをもってクラスのあつまりや自由活動中に作りました。

ブーツの形が描いてある画用紙を線に沿って切り、“のりしろ”のところにのりを塗って張り合わせ、年中・年長さんはぬいどりをしました。年長さんは運動会でのメダル作りや、ウィビングでの経験からスムーズに作る事ができました。初めての年中さんもなかなか上手でしたよ。

年少さんは切り紙をしました。年少のあつまりの中で切り紙の経験をしていた為、とっても上手にでき、色々な形の模様が出来上がりました。にじぐみさんも切り紙に初挑戦しました。

どの献金袋も様々な飾りつけがしてあり、子ども達が思いを持って作ったステキな献金袋に仕上がりました。使った後は、ずっと大切にしておいて頂けたらと思います。クリスマス親子礼拝当日は、別の入れ物に移して献金を持ってきて頂いても構いません。

(AKI)

